

2018年(平成30年)6月29日発行

Hacsw

会員便り 第69号



公益社団法人 広島県社会福祉士会 広報委員会 編集

〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2 広島県社会福祉会館内 TEL : 082-254-3019 FAX : 082-254-3018

2018年度 第1回通常総会・公開講座のご報告

去る5月27日(日)、広島市南区地域福祉センターにて、公益社団法人広島県社会福祉士会2018年度第1回通常総会および公開講座が開催されました。議長に原本明美会員が選出され、会員数1,002名に対し出席者46名、委任状提出者462名で、定款に定める会員の過半数の出席により総会は成立しました。

まず、山中会長から、2018年度事業計画の3つの基本方針および運営方針として、社会福祉士の専門性を高めるための「人材育成」、会員の活動を支えるための安定した「組織運営」、県民の生活課題に対応していく「公益活動」に重点を置いて活動を進めていくと説明がありました。また、4月から就任された亀野事務局長より2018年度予算案についての説明に続いて、各委員長・支部長から事業計画の報告がありました。主な内容としては、社会福祉士を目指す人たちへの発信と関係機関との連携を強化することを目的として、これまで生涯研修委員会が進めていた活動を、今年度からは次世代育成委員会を単独設置して進めていくことや、県受託事業である広島県地域生活定着支援センター、若年性認知症サポートルームからも事業計画について報告がありました。

続いて、2017年度事業報告および決算報告がありました。各委員長・支部長から報告書に沿って説明があった後、決算報告、監査報告がありました。質疑応答では「これまで会が関わってきた経緯をしっかりと把握して活動を進めていく必要がある。」「どの理事が、どの事業(委員会)を担当しているのか明確にして欲しい。」といった意見がありました。いただいたご意見を受け、会員の皆さんに分かりやすく、参加しやすい体制を目指し、理事会でも協議していきたいと思えます。

総会と公開講座の間には、山口県社会福祉士会員2名が来られ、来月7月7日(土)・8日(日)に開催される全国大会への参加呼びかけがありました。大会紹介のためのDVD

では、登壇される講師紹介や観光地案内もあり、魅力的な山口の様子が伺えました。



隣県での開催です。皆さん、是非ご参加ください。

【公開講座】

『広島市の防災活動～被災地からの報告～』

公開講座では、今年3月に開催した、本会災害被災者支援委員会主催の研修会でも講師を務めていただいた、広島市防災士ネットワークの柳迫長三さんにお話をいただきました。

防災の基本は「自助」であり、自分の命は自分で守り、自分のことは自分で何とかすることが基本で、自分自身を守ることができれば、家族や友人・隣人を助ける「共助」ができるということや、普段から、災害弱者となる方々を支援の対象としている私たち社会福祉士に必要なことは、様々な情報を把握したうえで、その場に応じた判断をすることであるというお話も伺いました。まずは自分自身を守るために、日頃からの“備え”が大切だと感じました。



【副会長 平岡 和子】

6月号

2018年度第1回通常総会 / 事務局 New face 紹介 / 報告 リカバリー パレード / 広島県地域生活定着支援センター NEWS / 若年性認知症サポートルーム NEWS / 広島高齢者・障害者虐待対応専門職チームのメンバーを募集します! / 秋山先生のご紹介 / 秋山先生のコラム / 司法福祉委員会より、研修開催のお知らせ / 平成29年度共同募金 社会課題解決プロジェクト 募金へのご協力のお礼 / 編集後記

事務局 New face 紹介

～ 新事務局長 亀野 幸一郎 就任のご挨拶 ～

4 月 1 日から事務局に参りました亀野と申します。よろしくお願ひします。3 月までは、広島県の職員でした。教育委員会や総務局、健康福祉局の様々な部署で働き、最後の 2 年間は、「ひろしま国際センター」という公益財団法人に派遣され、法人運営の仕事をしていました。

県職員として働いて印象深かった仕事は、やはり公権力の行使に係ることで、県税の滞納に伴う財産の差し押さえや精神疾患のある方の措置入院に関わったことでした。対象者に関わる様々な人と話をしながら事務を進めていましたが、事務方の職員でしたので、滞納された県税が回収でき、措置入院できれば一件落着という気持ちでした。

対象となった方が、その後どのような生活をされているか気にならないことはなかったのですが、数年後に他の部署に移ったときには、私の中では一件落着となってしまいました。

今、御縁があり社会福祉士の方と一緒に働くこととなり色々ケースの話を聴き、県職員時代の仕事を振り返ってみると、もう少しほかのやり方もあったかなとも思うこともあります。

また、当時の同僚や上司の方の名前が、社会福祉士の会員名簿の中にあるのを見つけると懐かしさとともに、あの時あのように話されたのは、社会福祉士としての視点から話されていたのかと今になって思う次第です。

私の話はこれくらいにして、事務局長として考えていることは、当会の基本方針である「人材育成」、「組織運営」、「公益活動」のうち、「組織運営」ですが、会長も話されているとおり、法令、定款及び総会の決議を順守し、忠実にその職務を実行することが大切なことと思います。

1000 人を超える会員の方のため、微力ではありますがお役に立てる事務局でありたいと思っています。基本方針にもあるように多職種連携が重要なこととなっています。お互いの強みを生かし、弱みをカバーしながら仕事を進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



報告

今年も「リカバリー パレード」に参加しました。

5 月 3 日 平和と花の祭典 広島フラワーフェスティバルの「折り鶴みこし連」に参加してきました。このイベントは秋にある本番のリカバリー パレードに向けた広報を兼ねたプレイイベントです。多くの団体の方が応援に駆けつけ、皆で楽しく広報活動を行いました。我が社会福祉士会からは山中会長をはじめ、6 名の精鋭の参加です。

朝 10:30 に中区の竹屋小学校に集合し、事前に作成しておいた折り鶴みこしにみんなで飾り付けを行います。「Recovery Parade」「回復の祭典」「9.24 ハノーバー庭園集合!!」等々、みんなで思い思いのメッセージを書きました。

そして 12:00 に平和大通りに出て花の総合パレード「折り鶴みこし連」に参加です。「わっしょい、わっしょい、わっしょい!!!」学生と思われる参加者の大きな声に我々も負けずに頑張って声を出しました。ゴールの平和公園まであっという間の到着でした。

当初は天候を心配しておりましたが、見事な快晴で気持ち良く清々しいゴールデンウィークを過ごすことができました。

本番は 9 月 24 日（月・祝）です。みなさんもぜひ参加しましょう!!。

【 障害児者支援委員会 委員長 駄賀健治 】



広島県地域生活定着支援センター NEWS

地域生活定着支援センターは、高齢の方や障害のある方が矯正施設から退所後、地域の中で自立した日常生活が送れるように支援をしています。2017 年度は、①コーディネート（帰住先の調整）18 件 ②フォローアップ（帰住後の生活定着支援）26 件 ③相談支援（関係機関、対象者からの相談支援等）19 件です。その他、啓発活動としては、「共に生きる社会のために」をテーマに対人援助者のためのスキルアップ研修（全 4 回）を日本社会福祉弘済会・社会福祉助成事業により開催しました。各回、様々な分野で活躍されている講師をお迎えし、参加者の皆さんと学び合い、多くの気づきを得ることができました。

■共に生きる社会のために

参加者数 延べ 235 人

- 第 1 回 支援を考える
- 第 2 回 罪に向き合うとは
- 第 3 回 私たちは何を学ぶか
- 第 4 回 ネットワークをどうつくるか

第 1 回：兵庫県立大学環境人間学部准教授 竹端寛さんの話を聞く。竹端さんは、意思決定支援は“想いや願い”の実現の支援であると言う。支援者は本人の想いや願いの実現のために「ともに（with）モード」で「対等に出会う人」であるかが常に問われている。鼎談は竹端さんと日本社会福祉士会副会長 中島康晴さん、前広島県地域生活定着支援センター長河合知義さんが登壇。



第 2 回：映画「Lifers ライファーズ 終身刑を超えて」を鑑賞し、映画監督 坂上香さんの話を聞く。

（自分に）どんな感情があるのかを理解し、それを受け止め、表現できる力（＝エモーショナルリテラシー）を身に着けていく。その

中で関係性を作っていく、社会に出た時にも安全な社会を作っていくことにつながる。

坂上さんは「社会の中で“傷”がちゃんと変容できるようなシステムやケア、関係性を考えて行く必要がある」との思いで映画を作り続けている。

第 3 回：講演Ⅰ「長崎の実践を広島へ」講師は長崎県地域生活定着支援センター所長 伊豆丸剛史さん。長崎県地域生活定着支援センターは、2009 年 1 月から事業を開始。先駆的な官民協働のしくみ作りや多様なシェルターの確保、学生たちとの関わり等、数々の取り組みを紹介。

講演Ⅱ「福祉と司法、どう手をつなぐか」講師は広島弁護士会 更生保護プロジェクトチーム座長 佐藤邦男さん。司法と福祉の立場の違いや連携における難所と役割について話を聞く。意見交換会では、更生保護法人ウイズ広島理事長山田勘一さんが指定発言者として登壇。



第 4 回：公開講演会。長年、ホームレス支援に携わって来られた NPO 法人「抱樸」奥田知志代表に「伴走型支援とは～今後の刑余者支援について」と題し話を聞く。経済的困窮と社会的孤立の問題についてできることは何か。

奥田さんは「すぐに問題解決しないとわかっている人が求めているのは一緒に動いてくれる人。資格も技術も要らない。誰でもその気になればできる。伴走型の社会、孤立させない社会をつくろう」「処方箋は普通の暮らしの中にある」と語った。

【 広島県地域生活定着支援センター 太田早苗 】

若年性認知症サポートルーム NEWS

若年性認知症サポートルームは平成 29 年 10 月 1 日に広島県より広島県社会福祉士会が受託し開設しました。

平成 29 年 12 月 1 日より、相談支援業務を開始いたしました。開設当初、若年性認知症コーディネーターは 1 名体制でしたが、平成 30 年 5 月 16 日より、2 名体制で業務を行っております。

まだまだ不慣れではありますが、「出来ることからコツコツと」をモットーに頑張りますので、よろしくお願いします。

【 副会長 赤山 亮 】



糸原（左） と 栗田（右）です。
よろしくお願いします。



広島高齢者・障害者虐待対応専門職チームのメンバーを募集します！

お知らせ

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行されてから、県市町での虐待対応の重要性がますます高まっています。

こうした中で具体的な虐待対応と未然に虐待を防ぐ仕組みの確立を支援する目的に、平成22年3月に広島県弁護士会と広島県社会福祉士会が協同して「広島高齢者・障害者虐待対応専門職チーム（以下、専門職チーム）」を設置しました。

専門職チームは、要請のあった県市町および地域包括支援センター等の虐待対応関係機関に弁護士と社会福祉士各1名を担当として派遣します。派遣された担当はケース会議で、現に行われている虐待対応について、権利擁護や法的視点、あるいはソーシャルワークの視点などの専門的見地から助言等を行います。個別のケースに対して『虐待対応のどの段階にあり、どのような根拠を持って、その判断をしようとしているのか』等の助言を行うことが役割となります。平成29年度までに、5つの市町と派遣の契約を結び、随時、要請を受けて担当を派遣しており、今後できるだけ多くの市町との契約が締結できるように努めていきたいと考えています。

その他には、市町の高齢者や障害者の虐待防止ネットワークの委員としてケース会議に参加すること、広島県地域包括ケア推進センターが市町や地域包括支援センターから相談を受けた場合には、相談員として当該市町に派遣されること、県・市町が開催する研修への講師派遣を通じて、虐待の早期発見・防止の啓発にも貢献しているところです。

今後も関係機関から求められる要請に応じていくためには、人的な体制整備も不可欠で、チームのメンバーをより多く集めて、養成していく必要があると考えています。『メンバーになって、弁護士と共同で同じ目的を持って活動をしたい、学びたい』『これまで現任者として、虐待対応をした経験を活かしたい』など、チームの活動に関心を持たれた方は、どうぞ広島県社会福祉士会事務局までご連絡をください。

『現在は要件を満たさないがチームの活動に興味を持っている』『合同会議の様子だけでも一度見てみたい！』という相談もお受けしています。

～ 当会における専門職チームのメンバー登録に必要な主な要件 ～

- ① ばあとなあひろしまの名簿登録者で成年後見人等をすでに受任していること
- ② 当会主催の高齢者虐待対応標準研修を受講できること
- ③ 弁護士会とのチーム合同会議（隔月開催・平日夜）へ参加できること

（平成30年4月現在、弁護士44名 社会福祉士13名が登録）



【 広島高齢者・障害者虐待対応専門職チーム 松谷恵子 】

新連載コラム 秋山 智久先生のご紹介



今年、来年と計8回にわたり、なっ、なんと、あの、秋山智久先生（島根県社会福祉士会所属）に「ソーシャルワーカーのあるべき姿や原点」に関して執筆をして頂くこととなりました。

先生は、大学教員の社会福祉士・第1号。日本社会福祉士会の創設に関わり、初代副会長として組織の基礎を創った方であり、会の設立宣言やロゴマークを作成した方でもあります。また47年間にわたり、我が国の福祉系大学の教授、学部長などを歴任され、現在、日本社会福祉学会の名誉会員（会員数5,000人中、13人のみ）となられています。

著書としても「社会福祉実践論」「社会福祉専門職の研究」等々とあり、みなさまもご存知のことと思います。

社会福祉士の資格を持っではいるものの…、自身は何を求めて何をしてゆくべきなのか…、社会福祉士とはいったい何なのか…等と、モヤモヤした中で、日々の実践を淡々とこなしてしまっている。そのような状態に「新たな光」と「活力」を頂けるのではないかと思います。

今回はその記念すべき第1回。これからもみなさま、楽しみにして下さいね。

【 広報委員会 委員長 巴 直樹 】



「社会福祉実践の原点」

福祉哲学研究所 所長 秋山 智久
(博士〔社会福祉学〕)

第 1 回 「我らは闘う」－ 日本社会福祉士会設立宣言の確認

設立宣言

「決戦の日雨だった」。これは名作映画「七人の侍」の中の重要なセリフである。
日本社会福祉士会が設立総会を持った日もそうであった。ちょうど、25 年前、1993 年 1 月 15 日、東京都八王子市・大学セミナーハウスのことである。ひどい雨の中にもかかわらず、全国から馳せ参じた同志たちは熱気に溢れていた。

設立総会の頂点において、筆者が起草した「設立宣言」を読み上げるようになった。
その締めくくりは次のような文言である。

「我々『社会福祉士』は、次のように願う。
我々は闘う、全ての人々のより良き生活のために。
我々は憎む、非人間的な社会を。
我々は愛する、全てのかげがえのない人々を。
我々は援助する、謙虚な心と精一杯の努力をもって。」

この宣言の中にソーシャルワーカーとしての社会福祉士のあり方の原点が含まれている。

ロゴマークの意味

筆者は日本社会福祉士会の初代副会長として会の英文表記をどのようにすべきかを当時の社会福祉専門官と相談し、Certified Social Worker（公認ソーシャルワーカー）にしようと決めた。そのロゴマーク （頭文字のデザイン）はどのような意味を持っているのか、「日本社会福祉士会ニュース No. 100」に掲載したロゴマークの意味を確認する。

このロゴマークは楕円形の中に入っている。楕円には二つの焦点がある。

その焦点の一つは「クライアントの権利と生活の擁護」であり、もう一つの焦点は「ソーシャルワーカーとしての実力の向上」である。この二つの焦点は、社会福祉士の目指すべきものを端的に表現していると言えよう。

社会福祉実践を豊かにするもの

未熟で至らない自分をソーシャルワーカーとして育ててくれるものは何か。

次のようなものである。

① 出会い

理論と人への出会いは、何も知らなかった幼稚な自分を目覚めさせてくれる。

② 経験

苦しみと悲しみの経験は、他者の痛みを感じさせてくれるようになる。

③ クライアント

この相手が自分を変えてくれる。

④ 愛

自然と芸術・文学と「人」に触れることによって、「人」への愛が育つ。星も花も犬も愛さないで、ある日、突然に「人」を愛することは出来ない。

ソーシャルワーカーの最大の武器は「人間としての豊かさ」である。



司法福祉委員会より、研修開催のお知らせ

A4刷りのチラシを同封しています。
ぜひともお目通し下さい！

2018年11月に、認定社会福祉士対応 司法ソーシャルワーク研修を“広島県”で開催します。本研修は、福祉的支援が必要な罪を犯した方を支援するために求められる「基礎的な知識・スキル」を身につけることを目的としております。

本講義の内容を紹介致します。

- ① 「司法に関する基礎的知識」 龍谷大学法学部教授 浜井 浩一 氏
- ② 「刑事施設における福祉的な支援を必要とする受刑者の処遇等」
法務省近畿地方更生保護委員会委員長 荒木 龍彦 氏
- ③ 「地域生活定着促進事業」 明石市社会福祉協議会 権利擁護支援課
権利擁護推進担当主任 佐藤 寛士 氏
- ④ 「更生保護の概要」 法務省広島保護観察所 統括保護観察官 生田 奈美 氏
- ⑤ 「犯罪被害者への支援」 公益社団法人広島被害者支援センター副理事長 長井 貴義 氏
- ⑥ 「犯罪の理解」 弁護士法人広島総合法律会計事務所
弁護士 秋田 智佳子 氏
- ⑦ 「ソーシャルワークの視点」 広島国際大学名誉教授 岡崎 仁史 氏
- ⑧ 「支援の実際」 広島地方検察庁 刑事政策総合支援室
社会福祉アドバイザー 田中 洋子 氏
- ⑨ 「司法福祉の展望」 弁護士・前広島高等検察庁検事長 酒井 邦彦 氏

司法ソーシャルワーク研修を実施し、広島県で認定単位を取得できたという熱い思いを抱き、1年以上に渡る準備期間を経て、満を持して開催の運びとなりました。7月には皆様のお手元に開催要綱をお送りする予定であります。より多くの会員の皆様にご参加いただけるよう、委員一丸となり奔走しておりますので、ご期待下さい。

【司法福祉委員会 委員長 原本 一】

平成29年度共同募金 社会課題解決プロジェクト

～募金へのご協力の御礼～



募金総額は、 1,021,118 円 となりました。



この募金は、県内の学校等や地域の集まりへ出向き、障害児者の理解や必要な配慮について伝えることを目的とした『すべての障害児者と市民を結ぶひろしま県民会議』が実施する平成30年度事業に充てさせていただきます。

皆様方のご協力に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

編集後記



★1年1年体脂肪もついてくる。毎日のジョギングとスクワットが欠かせない今日この頃（藤浴）★スマホのゲームが面白すぎて困る!!! 皆さん依存症に気を付けましょう!!!（酒井）★ペーパードライバーの若い同僚曰く「このまま運転せずに自動運転の車に乗ります!」それもイネ!（坂本）★先日、理学療法士さんにお世話になりました。「この仕事のきっかけは自分がよく知ってます!」と彼女。眩しくてドキッとしました。（幸本）★またまた田植えの時期です。今年は乗る田植え機デビューしました。美味しいお米は多くの汗が詰まっていることを実感です!（山根）★子どもの頃から大好きだった絵本作家の かこさとし さんがお亡くなりになった。あのすばらしい絵本の原点は、セツルメント活動から育まれたという。悲しみとともに、福祉とは、福祉職とは…等々と考えさせられた。謹んでご冥福をお祈りいたします。（巴）

次号、広報紙は9月に発行予定です。